

唾液中sIgAと栄養状態、免疫について： sIgA濃度の信頼性について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-10-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 澁谷, 雪子, 杉山, 育代 メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-tokiwa.repo.nii.ac.jp/records/1124

2-T-2

唾液中 sIgA と栄養状態、免疫について － sIgA 濃度の信頼性について－

澁谷雪子¹⁾杉山育代¹⁾

本研究の目的は、唾液の臨床検体としての有用性を検討することである。今回は、血中の栄養状態を評価する項目（総蛋白 TP、アルブミン ALB、グロブリン GLB、総コレステロール CHO、中性脂肪 TG）と、唾液成分（sIgA）の濃度との関係性を検討した。また、アンケート集計により栄養評価・免疫能評価を行った。sIgA 濃度の炎症による変動の有無について血中 IL-6 も測定した。

インフォームドコンセントを得た神戸常盤大学保健科学部医療検査学科 4 年生 20 名の唾液（混合唾液）を採取し、また、採血により血清を採取した。唾液は、sIgA 濃度、AMY 活性の測定を行い、血清は、TP、ALB、GLB、CHO、TG 濃度、IL-6 濃度を測定した。また、栄養評価・生活習慣についてのアンケートを行い、BMI の算出を行った。

唾液中 sIgA 濃度が低値のグループでは、食事のバランスが悪い・インスタント食品を食べる習慣がある・風邪をひきやすいという傾向が見られ、高値のグループでは、風邪をひきにくい・CHO 濃度が低くないという傾向が見られた。そこから、sIgA 濃度が、高いほど栄養バランスが保たれていることが考えられる。よって、唾液中の sIgA 濃度と栄養状態との関係があることが示唆された。血中 IL-6 と sIgA には、明確な関係性は見いだせなかった。

1) 保健科学部医療検査学科